

【極楽とんぼ】加藤浩次「レーシック手術するも視力悪化」再手術できない理由

9月30日放送の『極楽とんぼ オレたちちょこっとやってまーす!』（MBS ラジオ）にて、加藤浩次がレーシック手術について語っていた。

「レーシックやったって言ったじゃん。で、今、視力どんどん落ちてんのね。昨日、病院に行っただよ。右目が0.9、左目が0.5で。

両目1.5、1.5まで行ってただけど、どんどん下がってて。ちょっと上げようかなって思って」日常生活にも不都合があるという。

「車、運転してても大丈夫なレベルなんだけど、夜とかテールランプが若干にじんで見えたりするようになって。クレーム入れてもう一回、行こうって思って」

その後、どうなったのか。

「『ああ、だいぶ落ちてますね』って。0.9、0.5だっって言われて。眼鏡作るときに、丸い眼鏡かけて、そこにレンズ挟んでくのあるじゃない？」

レンズ挟んで、1.5、1.5になるわけ。『ああ、全然違うな』『すげえ見えるな』って思って。もう一回、手術しようかなって思って」

しかし、もう一度手術をするにあたって、医師からは「問題がある」と言われてしまったそう。

「『ちょっと、スマホ見てもらっていいですか?』って言われて、1.5、1.5にしたら、全然見えねえの（笑）。

今まで0.9、0.5だったから、左右違うわけじゃん。遠く見てるときは、0.9で見てんだって、右目で。それで、スマホ見てるのは0.5だから、遠くは見えないけど、近くは見やすいわけよ」

つまり、再度手術をすることで、老眼への対応が難しくなるのだという。

「1.5、1.5にしたら、もう手を50センチくらい離さないとスマホ見れねえよ（笑）。ってことはさ、山本（圭壱）とかに『なんだよ、老眼きて。おれ、全然きてねえわ』って言ってたじゃん。きてたのよ（笑）。

目の視力が左右違って、片方が悪いから、悪い方で見てるだけで、実は 1.5、1.5 にしたら、全然見えない。この問題が出てくるんだってよ」

老眼が進む年齢でのレーシック手術には、注意したほうがよさそうだ。

<https://smart-flash.jp/showbiz/26624/amp>

さて彼のような場合、今後どうなるのかを予測すると、一般的に老眼は70歳くらいまで進行しますので、年々、手元はもっと見づらくなっていくでしょう。

またレーシック手術をすることで、かえって遠くも近くも見づらくなることは多々あります。そして上記のような状態から東京視力回復センターでトレーニング等を行った場合、遠くの視力は1.0位まで回復しつつ、近くも目の中の調節力を一定程度維持できる可能性が高いと思われます。

本来、老眼の完全な回復は難しいのですが、例えば女優さんで見た目が70歳を超えていて20代に見えるのは不可能でも、50代60代前半に見えることはありますよね。

体力やからだ年齢も同じく、その方法を知る事やそれを毎日継続する事で意識的に改善や維持することが可能な時代になってきてます。

目の場合も同じで10代や20代の機能に戻ることは不可能でも、若さや機能をある程度維持、そして改善していくことは可能なのです。